

証券コード：6469



株式会社 **放電精密** 加工研究所

2027年2月期 第2四半期(中間期)
決算説明会資料

2026年10月15日

■ 本資料のポイント	…P.3	■ 2027年2月期通期連結業績予想	…P.13～
■ 2027年2月期第2四半期(中間期)決算概要		■ 中期経営計画2027における施策の進捗	…P.24～
□ 2027年2月期第2四半期(中間期) 決算概要 (連結)	…P. 4		
□ 2027年2月期第2四半期(中間期) 利益の変動要因	…P. 5		
□ 事業概要	…P. 6		
□ 2027年2月期第2四半期(中間期) セグメント別概要	…P. 7～		
□ 連結貸借対照表とCFの状況	…P. 11		
□ 2027年2月期 設備投資・償却費・研究開発費	…P.12		

- 別紙① : 2027年2月期第2四半期(中間期)決算補足資料
- 別紙② : 企業概要について

2027年2月期 第2四半期(中間期) 連結業績の総括

◆売上高8,636百万円 前年同期比21.6%増

- おもに放電加工・表面処理の売上の伸びが寄与

◆営業利益1,132百万円 前年同期比83.7%増

- 増産によるスケールメリットおよび高付加価値品の売上増加が収益改善に寄与し増益

◆親会社株主に帰属する中間純利益732百万円

2027年2月期 通期連結業績予想

◆2026年10月6日、通期連結業績予想を修正

- 売上高は前期比+19%の成長、営業利益は+63%を予想
- 売上高および営業利益・経常利益で過去最高を更新する見通し

中期経営計画2027 における施策の進捗

◆中期経営計画2027達成に向けた活動の進捗

- 事業拡大と営業利益率10%台の両立
- 次期中期経営計画を見据えた成長事業への投資の考え方

2027年2月期第2四半期(中間期) 決算概要 (連結)

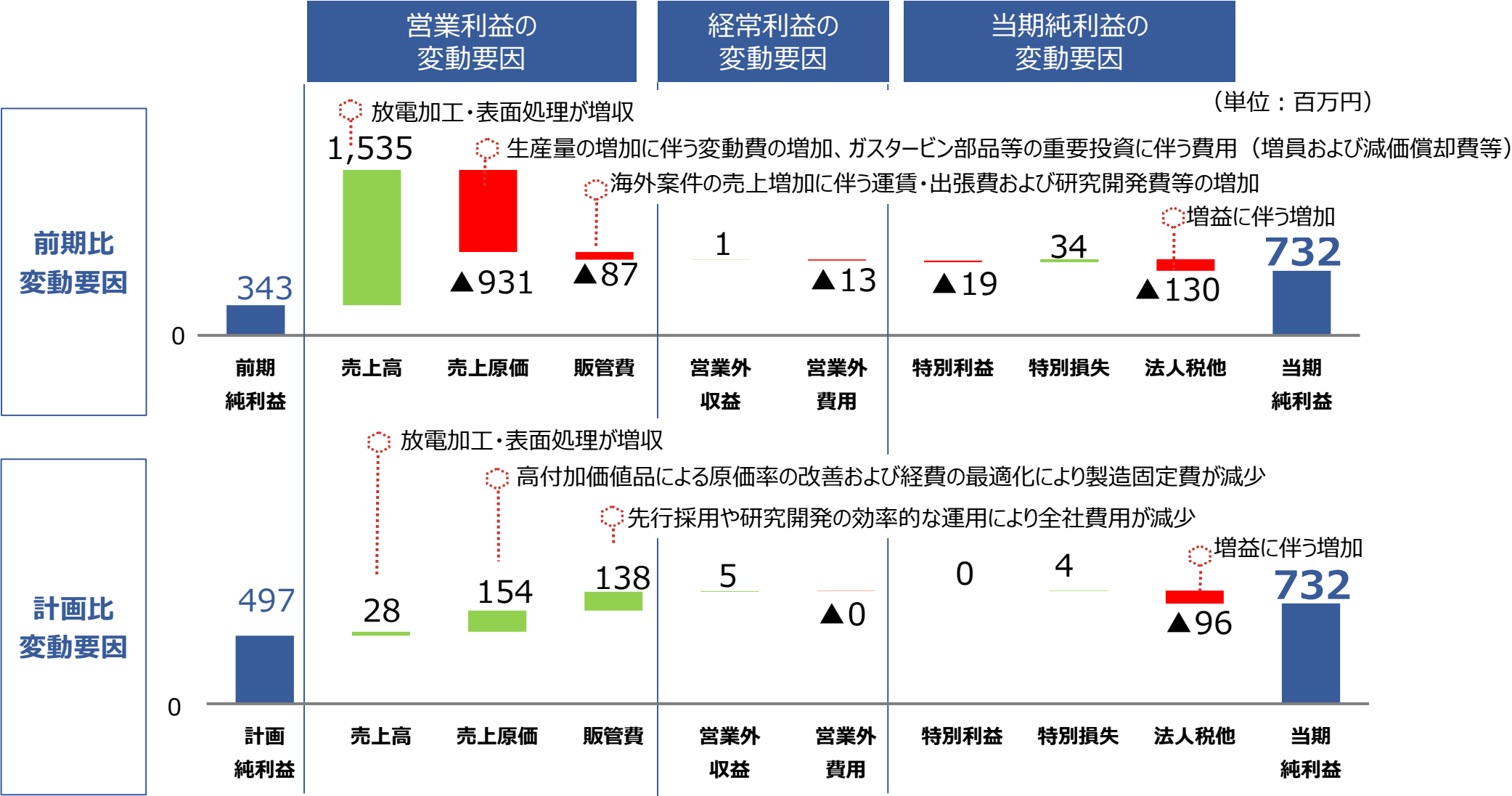


(単位：百万円)

	26年2月期 第2Q実績	27年2月期 第2Q計画	27年2月期 第2Q実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	7,101	8,607	8,636	+1,535	+28
売上原価	5,234	6,320	6,166	+931	▲154
売上総利益	1,866	2,287	2,470	+603	+182
販管費	1,249	1,476	1,337	+87	▲138
営業利益	616	810	1,132	+516	+321
営業外損益	▲44	▲60	▲56	▲11	+4
経常利益	571	750	1,076	+504	+326
特別損益	▲15	▲5	▲0	+14	+4
税金等調整前 中間純利益	556	744	1,075	+519	+331
法人税等	196	233	332	+135	+98
中間純利益	359	510	743	+383	+232
非支配株主に帰属する 中間純利益	16	13	11	▲5	▲2
親会社株主に帰属する 中間純利益	343	497	732	+388	+234

※27年2月期計画：26年7月7日公表 業績予想

2027年2月期第2四半期(中間期) 利益の変動要因



※計画比：26年7月7日公表 業績予想

※純利益：親会社株主に帰属する中間純利益
※法人税他：法人税等および非支配株主に帰属する中間純利益

放電加工・表面処理

- 航空・宇宙 ～航空機エンジン部品、防衛装備品
- 交通・輸送 ～自動車表面処理部品
- 環境・エネルギー ～ガスタービン部品



金

型

- 住宅 ～アルミ押出用金型
- 交通・輸送 ～セラミックスハニカム押出用金型



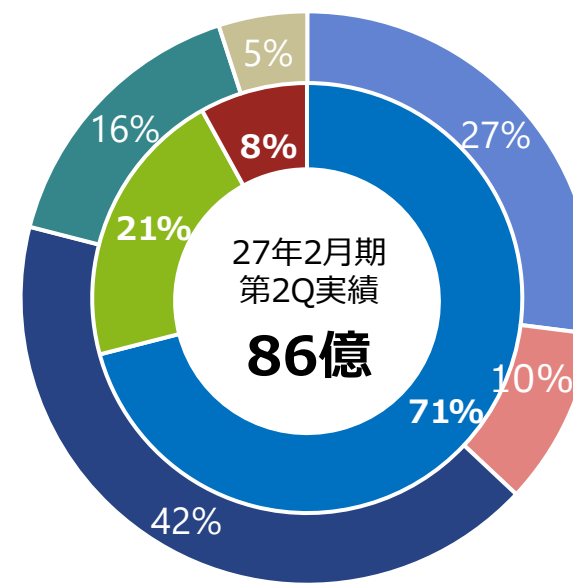
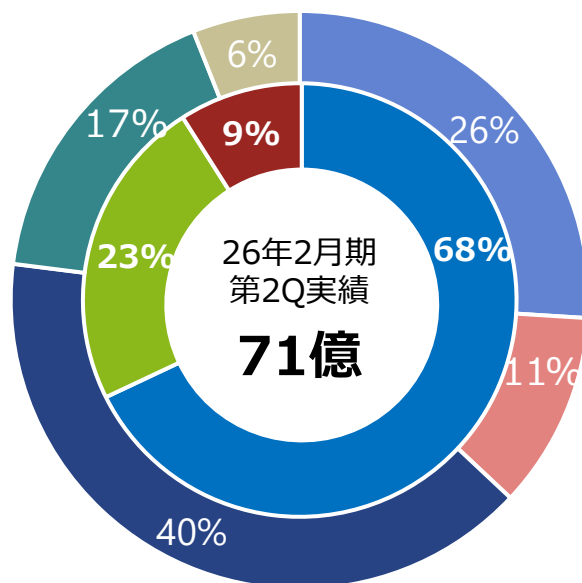
機械装置等

- 機械設備 ～プレス機・プレス付帯設備
- 交通・輸送 ～自動車関連プレス部品



セグメント別/事業分野別売上構成比率（連結）

セグメント別 ■ 放電加工・表面処理 ■ 金型 ■ 機械装置等



事業分野別 ■ 航空・宇宙 ■ 交通・輸送 ■ 環境・エネルギー ■ 住宅 ■ 機械設備

2027年2月期第2四半期(中間期)セグメント別概要

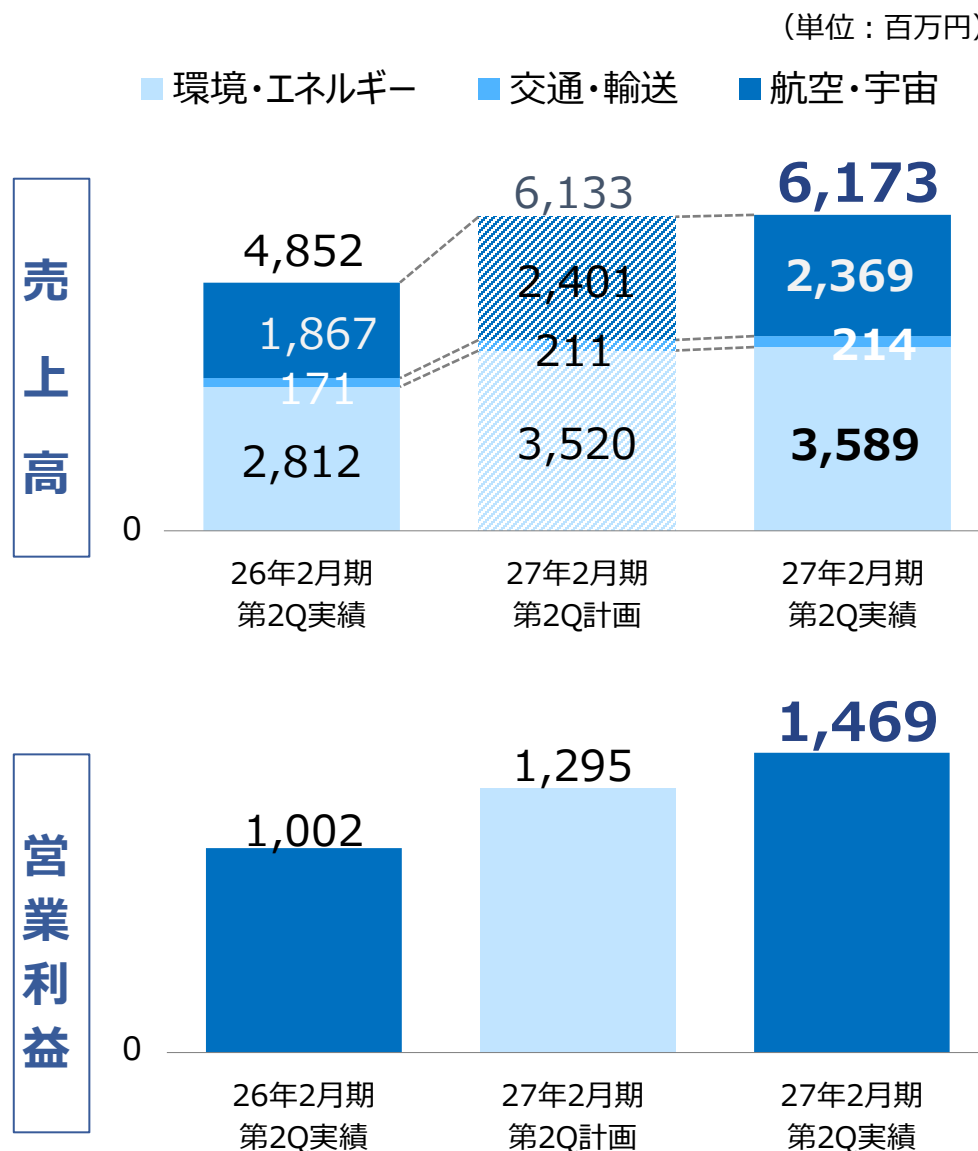


(単位：百万円)

		26年2月期 第2Q実績	27年2月期 第2Q計画※	27年2月期 第2Q実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	放電加工・表面処理	4,852	6,133	6,173	+1,321	+39
	航空・宇宙	1,867	2,401	2,369	+501	▲32
	交通・輸送	171	211	214	+43	+3
	環境・エネルギー	2,812	3,520	3,589	+776	+68
営業利益		1,002	1,295	1,469	+467	+173
売上高	金型	1,646	1,782	1,793	+147	+12
	住宅	1,249	1,351	1,369	+119	+18
	交通・輸送	396	431	424	+27	▲6
営業利益		152	214	211	+59	▲2
売上高	機械装置等	602	691	669	+66	▲22
	機械設備	416	441	418	+1	▲23
	交通・輸送	185	250	251	+65	+1
営業利益		58	140	152	+94	+12
全社費用		▲595	▲839	▲701	▲105	+137
全社	売上高	7,101	8,607	8,636	+1,535	+28
	営業利益	616	810	1,132	+516	+321

※27年2月期第2Q計画：26年7月7日公表 業績予想

セグメント別詳細：放電加工・表面処理



前期比 増収・増益

売上高：4,852 ⇒ **6,173** (+1,321)

営業利益：1,002 ⇒ **1,469** (+467)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□ 航空・宇宙 (↑ / ↓)

- ◇前期比は、防衛装備品の旺盛な需要が継続したことに加え、航空機エンジン部品需要も増加し、増収。
- ◇計画比は、防衛装備品はおおむね想定通りに進捗。一方、航空機エンジン部品の需要が想定を下回り、分野全体では減収。

□ 交通・輸送 (↑ / →)

- ◇前期比は、自動車表面処理部品の需要が増加し増収。
- ◇計画比は、自動車表面処理部品の需要がおおむね想定通りに進捗。

□ 環境・エネルギー (↑ / ↑)

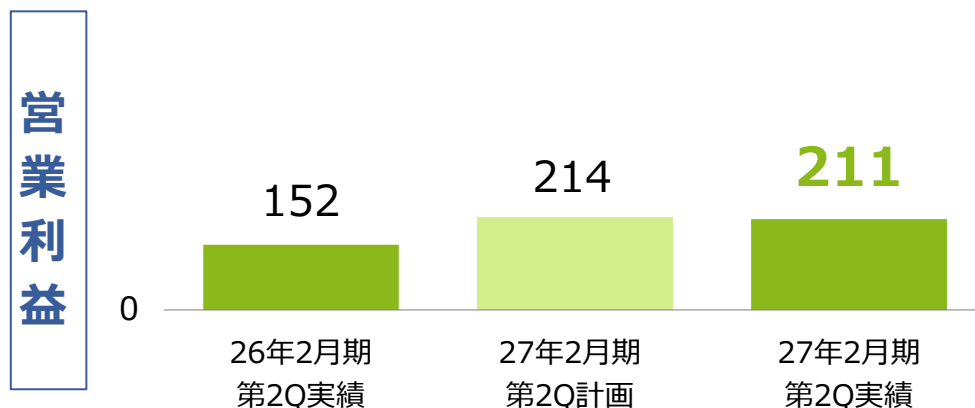
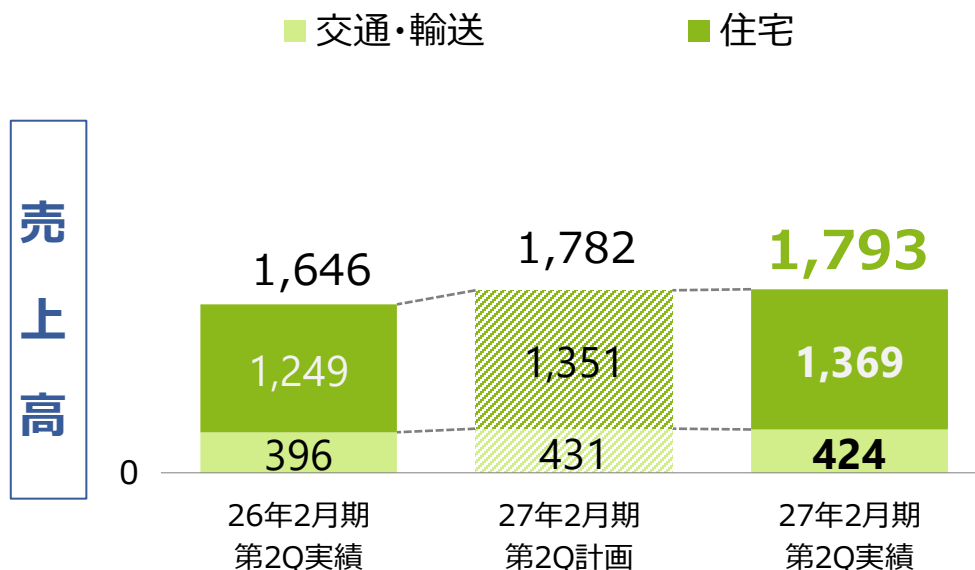
- ◇前期比は、ガスタービン部品において、前期に能力増強した設備が段階的に生産を開始したことで増収。
- ◇計画比は、ガスタービン部品および遠心圧縮機部品の受注が増加し増収。

営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□ (↑ / ↑)

- ◇前期比は、ガスタービン部品の設備販売や海外向け高付加価値品の売上増加および航空機エンジン部品および防衛装備品のスケールメリットにより収益性が向上し増益。
- ◇計画比は、ガスタービン部品の海外向け高付加価値品による収益性の向上および効率的な運用により経費を圧縮し増益。

(単位：百万円)



前期比 増収・増益

売上高： 1,646 ⇒ **1,793** (+147)

営業利益： 152 ⇒ **211** (+59)

売上高増減要因（前期比 / 計画比）

□ 住宅(↑ / ↑)

- ◇前期比は、住宅需要が低水準で推移したことから、住宅用アルミ押出用金型の国内向け受注は前期並み。海外子会社は、為替影響（円安）に伴い増収。
- ◇計画比は、国内の住宅用アルミ押出用金型が一時的な稼働低下により減収。一方、海外子会社はアルミ地金高騰に伴う金型交換需要により増収。分野全体では増収。

□ 交通・輸送(↑ / →)

- ◇前期比は、セラミックスハニカム押出用金型で高付加価値品の需要が増加し増収。
- ◇計画比は、製品構成の変化があり微減。

営業利益増減要因（前期比 / 計画比）

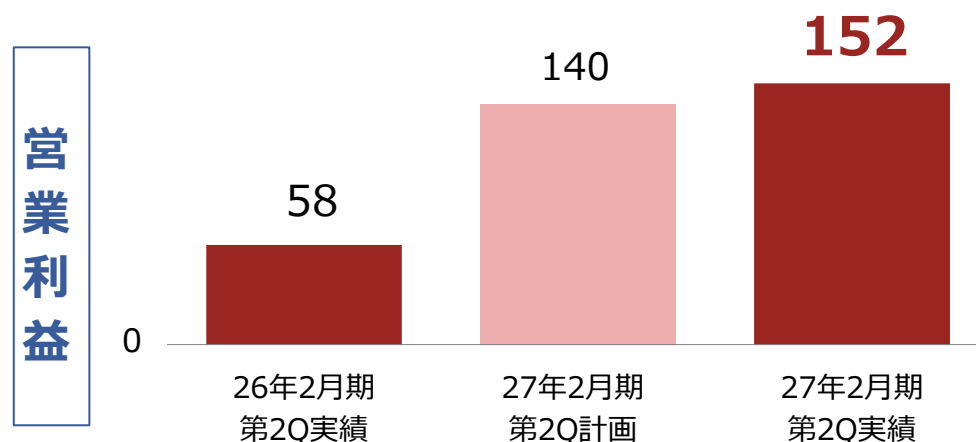
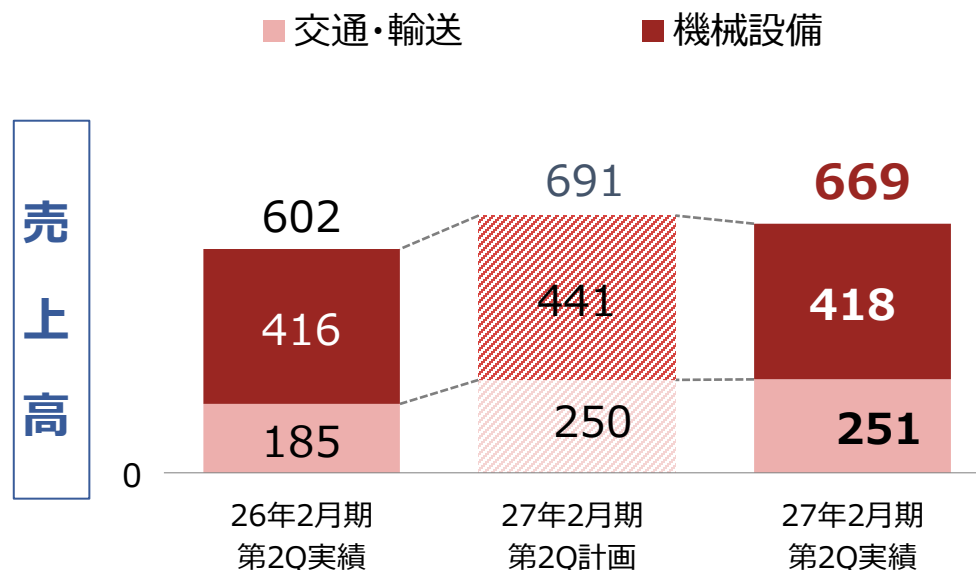
□ (↑ / →)

- ◇前期比は、セラミックスハニカム押出用金型が高付加価値品の売上が増加し増益。
- ◇計画比は、高付加価値品の売上増加による収益改善などが業績へ寄与したものの、アルミ押出用金型の減収により微減。

セグメント別詳細：機械装置等



(単位：百万円)



前期比 増収・増益

売上高： 602⇒ **669** (+66)
営業利益： 58⇒ **152** (+94)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□ 機械設備 (→ / ↓)

◇前期比は、プレス機の販売は減少したものの付帯設備の販売が増加し前期並み。

◇計画比は、プレス機および付帯設備の販売が計画未達で減収。

□ 交通・輸送 (↑ / →)

◇前期比は、自動車関連プレス部品は、価格改定により増収。

◇計画比は横ばい。

営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□ (↑ / ↑)

◇前期比は、成長事業の内製化に向けて経営資源の配分の見直しや、自動車関連プレス部品の価格改定により増益。

◇計画比は、減収も固定費の効率的な運用により増益。

財務基盤の強化および成長投資の推進

連結貸借対照表

(単位：百万円)

流動資産 8,330 前期末比： +255	流動負債 5,474 前期末比： +436
固定資産 11,143 前期末比： +200	固定負債 3,912 前期末比： ▲377
	純資産 10,086 前期末比： +398

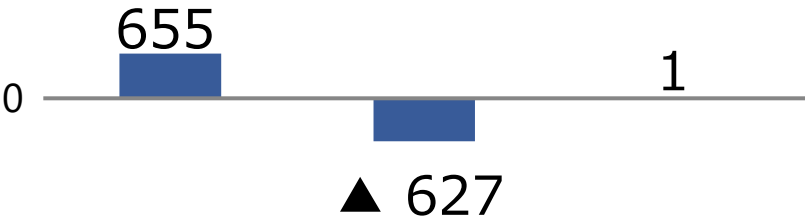
資産の部

負債純資産の部

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	26年2月期 第2Q実績	27年2月期 第2Q実績
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,414	2,564



営業CF 投資CF 財務CF

自己資本比率

2027年2月期第2Q	: 46.7%
2026年2月期	: 45.7%

設備投資／減価償却費

(単位：百万円)

	26年2月期 第2Q実績	27年2月期 第2Q実績	27年2月期 計画
設備投資	546	552	2,000
減価償却費	400	464	1,100

2027年2月期 主な投資案件

- ガスタービン部品の生産能力増強
- セラミックスハニカム押出用金型の生産効率化
- その他事業の定期設備更新
- 情報セキュリティ強化

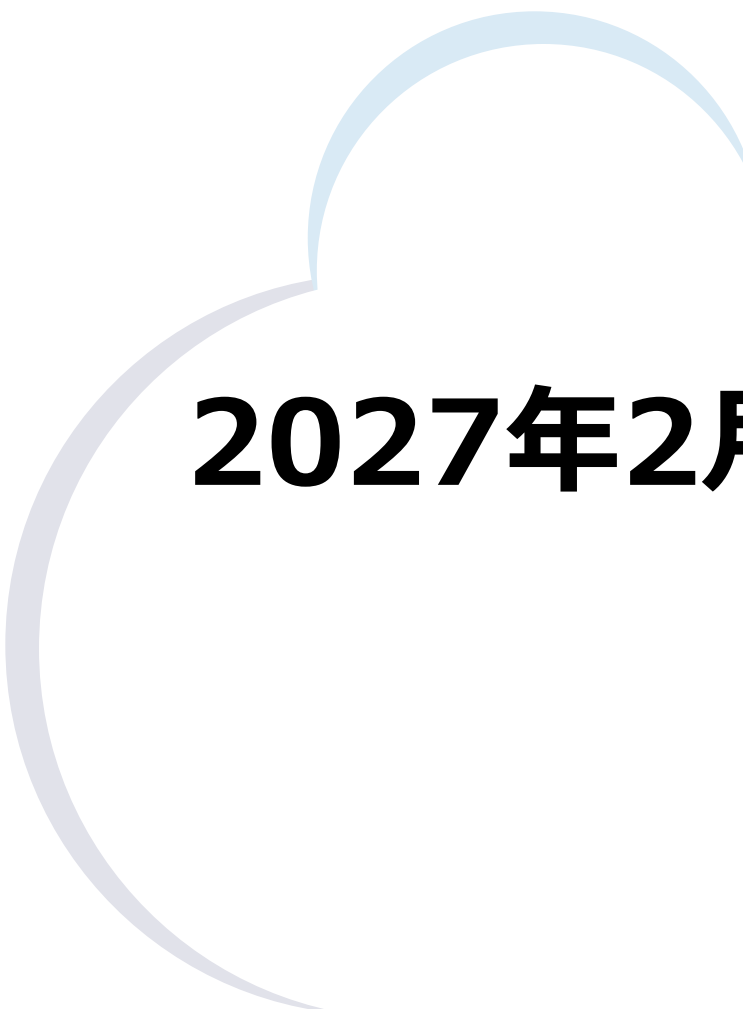
研究開発費

(単位：百万円)

	26年2月期 第2Q実績	27年2月期 第2Q実績	27年2月期 計画
研究開発費	12	24	70

2027年2月期 主な研究開発案件

- 自社リソースを活用し各生産拠点の自動化・省人化の推進
- 放電加工・表面処理のロボット活用および新工法の開発
- 混合溶融技術を活用した素材の開発および開発素材を活用した各種成型技術の検証



2027年2月期 通期連結業績予想

下期業績予想の前提条件

セグメント	外部環境 ↑ 増収要因 ↓ 減収要因		主な施策と進捗状況
放電加工 ・ 表面処理	↑	エネルギー分野は、AI普及を背景にデータセンターの増設に伴う電力需要が旺盛	・ガスタービン部品の新ラインは順調に量産へ移行しており、下期後半より投資の収益化開始を見込む ・足元では需要増加が一段と進み、対応策を顧客と協議中
		航空・宇宙分野は、燃費性能向上機材への買い替えおよび防衛予算増額を背景とした需要増加	・航空機エンジン部品は、既存アイテムの増産対応と新規アイテムの立上げを推進 ・防衛装備品の受注残は過去最高。協力先との体制を強化
金型	↑	住宅分野は、金利上昇など構造的要因が継続もアルミ価格高騰を背景に金型交換の需要増加	・アルミ押出用金型は、国内向けと海外子会社ともに、需要への対応および生産効率を追求
		交通・輸送分野は、米国関税政策の影響は僅少も、ガソリン車需要は低水準が継続	・セラミックスハニカム押出用金型は、既存の生産効率化およびカーボンニュートラル向けの高付加価値品で採算確保
機械装置等	↓	人手不足を背景に、自動化・省人化需要は継続。一方、金利上昇等により投資には慎重さも	・プレス機は、小型機の引き合い案件の早期受注化を推進
全社		中東情勢の影響によるサプライチェーンの混乱および石油価格の高騰の長期化	・価格転嫁により価格の適正化を維持継続 ・一括購入などによる調達コストの管理徹底および調達難の材料については顧客とともに安定調達を推進

売上高および営業利益・経常利益で過去最高を更新する見通し

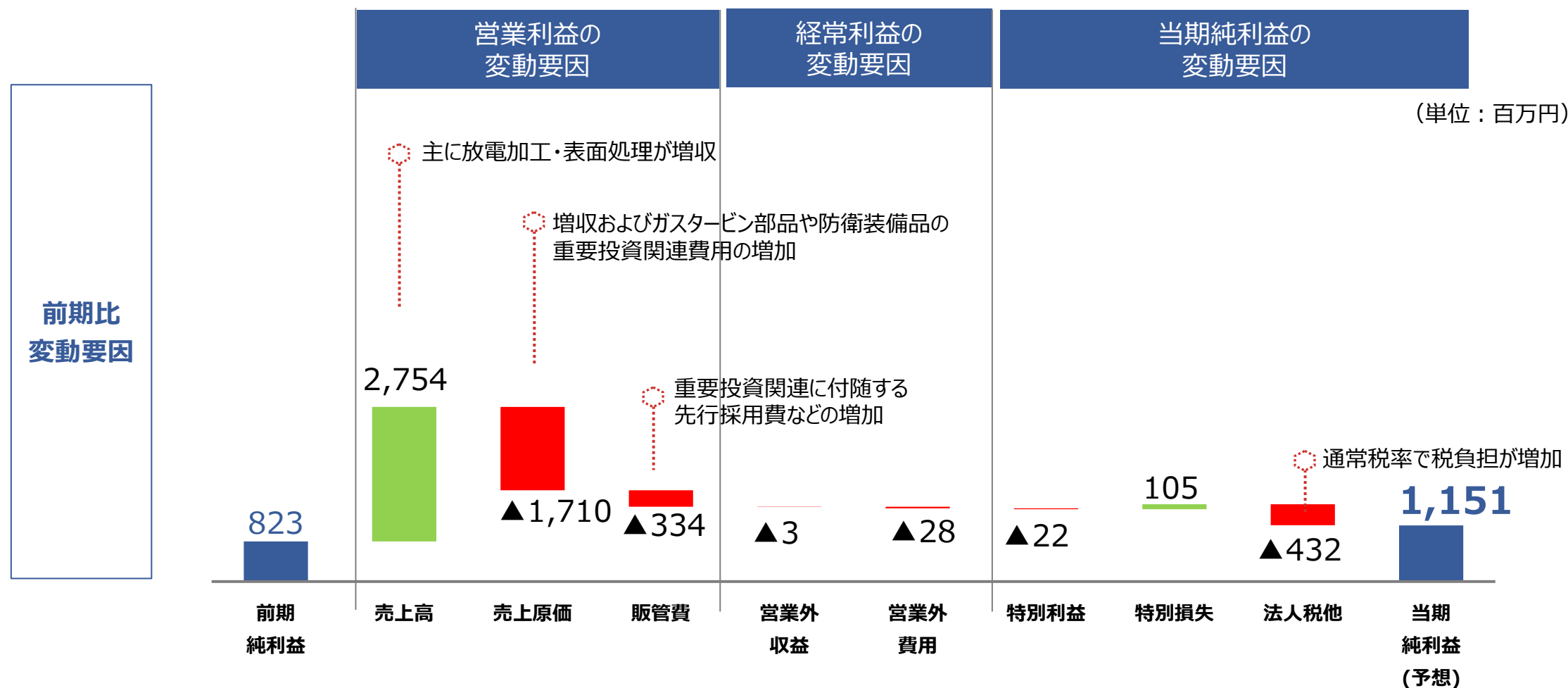
(単位：百万円/%)

	26年2月期 実績	27年2月期 2026年10月6日公表 修正予想	前期差異	前期比
売上高	14,312	17,067	+2,754	119.2%
営業利益	1,122	1,832	+709	163.2%
経常利益	1,038	1,715	+677	165.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	823	1,151	+328	139.9%

2027年2月期 通期連結業績予想 利益の変動要因



需要拡大と経費効率化が寄与：通期業績予想を上方修正、増収増益へ



※純利益：親会社株主に帰属する当期純利益
※法人税他：法人税等および非支配株主に帰属する当期純利益

2027年2月期セグメント別業績予想



環境・エネルギー分野のガスタービン部品は下期後半からの回収シナリオを維持

(単位：百万円)

		26年2月期 通期実績	27年2月期 通期業績予想	前期差 増減	27年2月期 上期実績	27年2月期 下期見通し	上下 増減
売上高	放電加工・表面処理	9,906	12,211	+2,304	6,173	6,037	▲135
	航 空 ・ 宇 宙	4,030	5,162	+1,131	2,369	2,793	+424
	交 通 ・ 輸 送	354	433	+79	214	218	+3
	環 境 ・ エ ネ ル ギ ー	5,521	6,615	+1,093	3,589	3,025	▲563
営業利益		2,025	2,811	+786	1,469	1,342	▲127
売上高	金 型	3,367	3,629	+262	1,793	1,835	+41
	住 宅	2,582	2,802	+220	1,369	1,432	+63
	交 通 ・ 輸 送	784	827	+42	424	402	▲21
営業利益		297	361	+63	211	149	▲61
売上高	機 械 装 置 等	1,039	1,226	+186	669	556	▲112
	機 械 設 備	710	793	+83	418	375	▲42
	交 通 ・ 輸 送	328	432	+103	251	181	▲69
営業利益		33	207	+173	152	54	▲98
全 社 費 用		▲1,233	▲1,548	▲314	▲701	▲846	▲145
全社	売 上 高	14,312	17,067	+2,754	8,636	8,430	▲205
	営 業 利 益	1,122	1,832	+709	1,132	699	▲432

参考)2027年2月期セグメント別業績予想 前回予想対比

LSK

(単位：百万円)

		27年2月期予想 2026年7月7日公表	27年2月期予想 2026年10月6日公表	前回予想 増減	差異要因
売上高	放電加工・表面処理	11,886	12,211	+324	売上は、航空機エンジン部品・防衛装備品・ガスタービン部品等の受注増加により増収。 営業利益は、増産によるスケールメリットおよび高付加価値品の売上増加により増益。
	航空・宇宙	5,101	5,162	+61	
	交通・輸送	404	433	+29	
	環境・エネルギー	6,380	6,615	+233	
営業利益		2,514	2,811	+297	
売上高	金型	3,589	3,629	+39	売上は、アルミ価格高騰を背景とする金型交換の需要や、海外子会社の為替影響により増収。 セラミックスハニカム押出用金型は前期並み。 営業利益は、増収により増益。
	住宅	2,753	2,802	+48	
	交通・輸送	836	827	▲8	
営業利益		352	361	+8	
売上高	機械装置等	1,243	1,226	▲17	売上は、プレス機販売の減少で減収。 営業利益は、減収により減益。
	機械設備	808	793	▲14	
	交通・輸送	434	432	▲2	
営業利益		258	207	▲50	
全社費用		▲1,688	▲1,548	+139	
全社	売上高	16,719	17,067	+347	
	営業利益	1,436	1,832	+395	

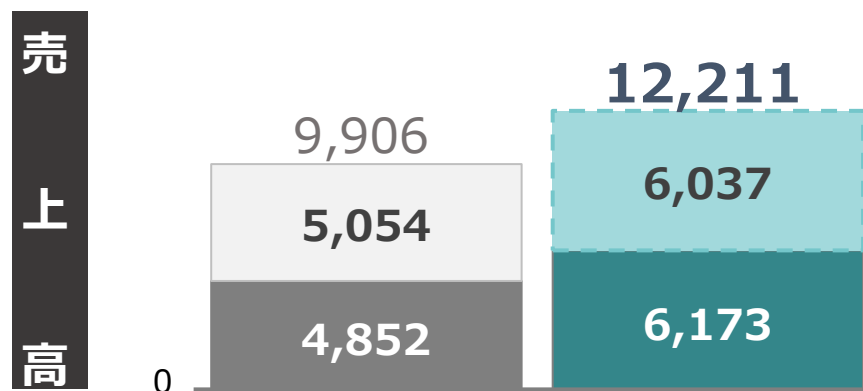
セグメント別詳細：放電加工・表面処理



■ 2026年2月期 上期実績 □ 2026年2月期 下期実績 ■ 2027年2月期 上期実績 ■ 2027年2月期 下期見通し

(単位：百万円)

2026年2月期 通期実績 2027年2月期 通期見通し



売上高下期見通し（上期対比）

■ (↑) 航空・宇宙

◇ 航空機エンジン部品と防衛装備品の受注高は過去最高を更新。
需要への着実な対応を見込み増収。

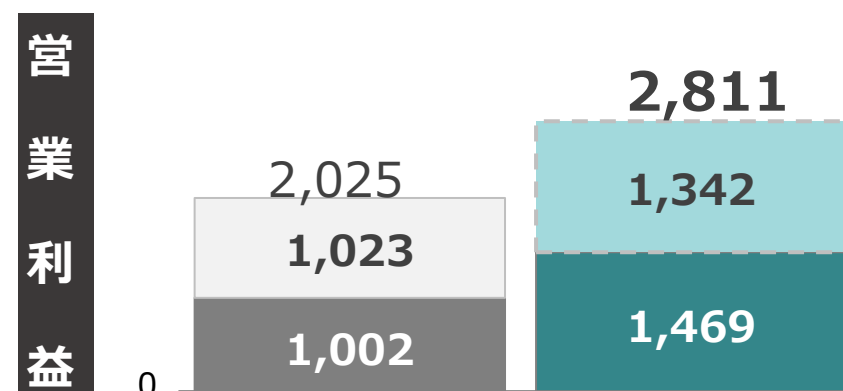
■ (→) 交通・輸送

◇ 自動車表面処理部品は、おおむね上期並み。

■ (↓) 環境・エネルギー

◇ ガスタービン部品は、設備販売および海外向け高収益品の売上が上期に偏重したことによる反動減を保守的に見込み減収。

2026年2月期 通期実績 2027年2月期 通期見通し



営業利益下期見通し（上期対比）

■ (↓)

◇ 航空機エンジン部品と防衛装備品のスケールメリットにより収益が向上。
一方、ガスタービン部品の高収益品の売上が上期に偏重したことによる反動減を保守的に見込み減益。
なお、投資分の収益化開始は第4四半期後半を見込む。

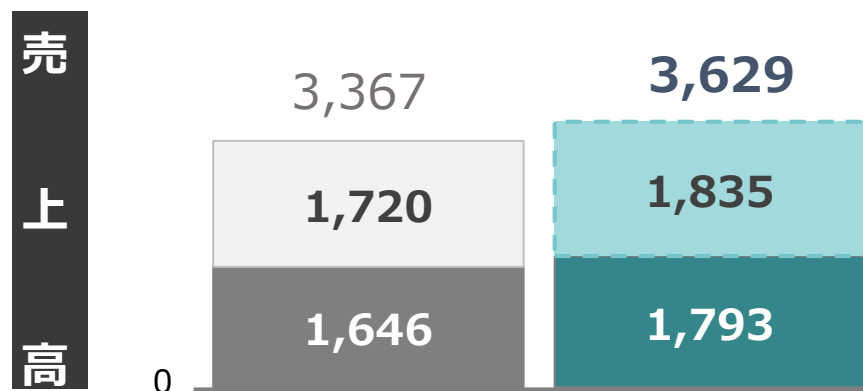
セグメント別詳細：金型



■ 2026年2月期 上期実績 □ 2026年2月期 下期実績 ■ 2027年2月期 上期実績 ■ 2027年2月期 下期見通し

(単位：百万円)

2026年2月期 通期実績 2027年2月期 通期見通し



売上高下期見通し（上期対比）

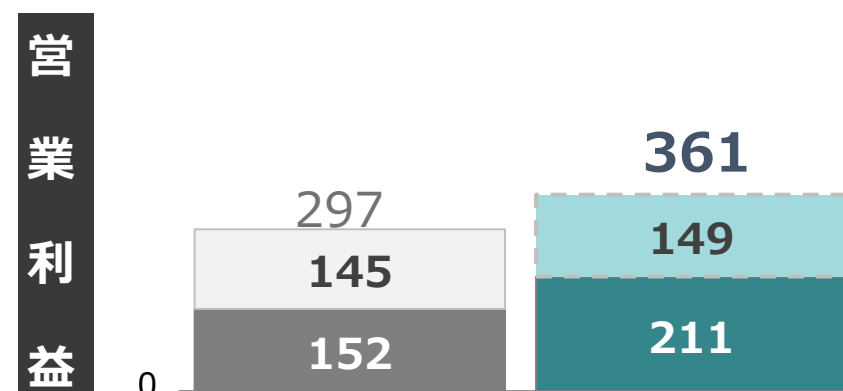
■ (↑) 住宅

◇ アルミ押出用金型は、アルミ地金高騰に伴う金型交換頻度が高まることでの受注の増加を見込み増収。

■ (↓) 交通・輸送

◇ セラミックスハニカム押出用金型は、高付加価値品の売上が上期に偏重したことから反動減を見込み減収。

2026年2月期 通期実績 2027年2月期 通期見通し



営業利益下期見通し（上期対比）

■ (↓)

◇ 増収もセラミックスハニカム押出用金型の高付加価値品の売上が上期に偏重したことから減益。

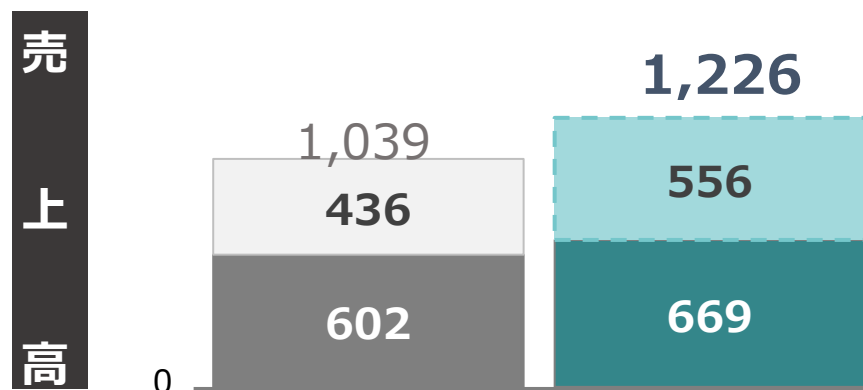
セグメント別詳細：機械装置等



■ 2026年2月期 上期実績 □ 2026年2月期 下期実績 ■ 2027年2月期 上期実績 ■ 2027年2月期 下期見通し

(単位：百万円)

2026年2月期 通期実績 2027年2月期 通期見通し



売上高下期見通し（上期対比）

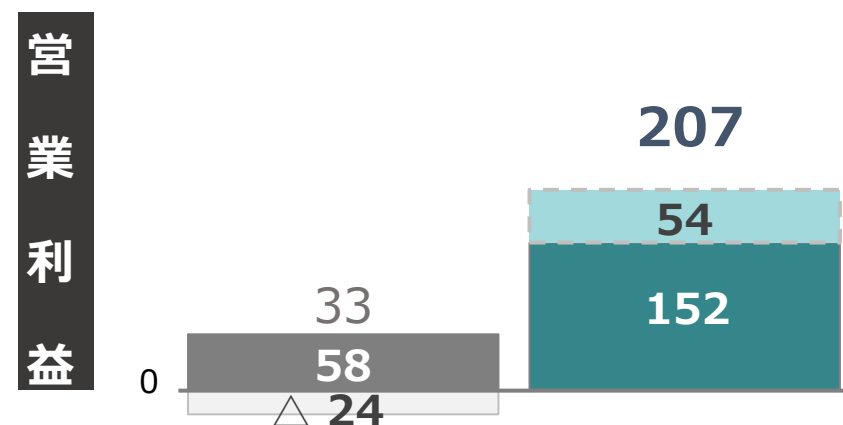
■(↓)機械設備

◇機械設備関連は、付帯設備やシェアリングサービスの受注の減少により減収。

■(↓)交通・輸送

◇自動車関連プレス部品は、需要の上期偏重。
下期は、前年同期並みの生産量を見込み減収。

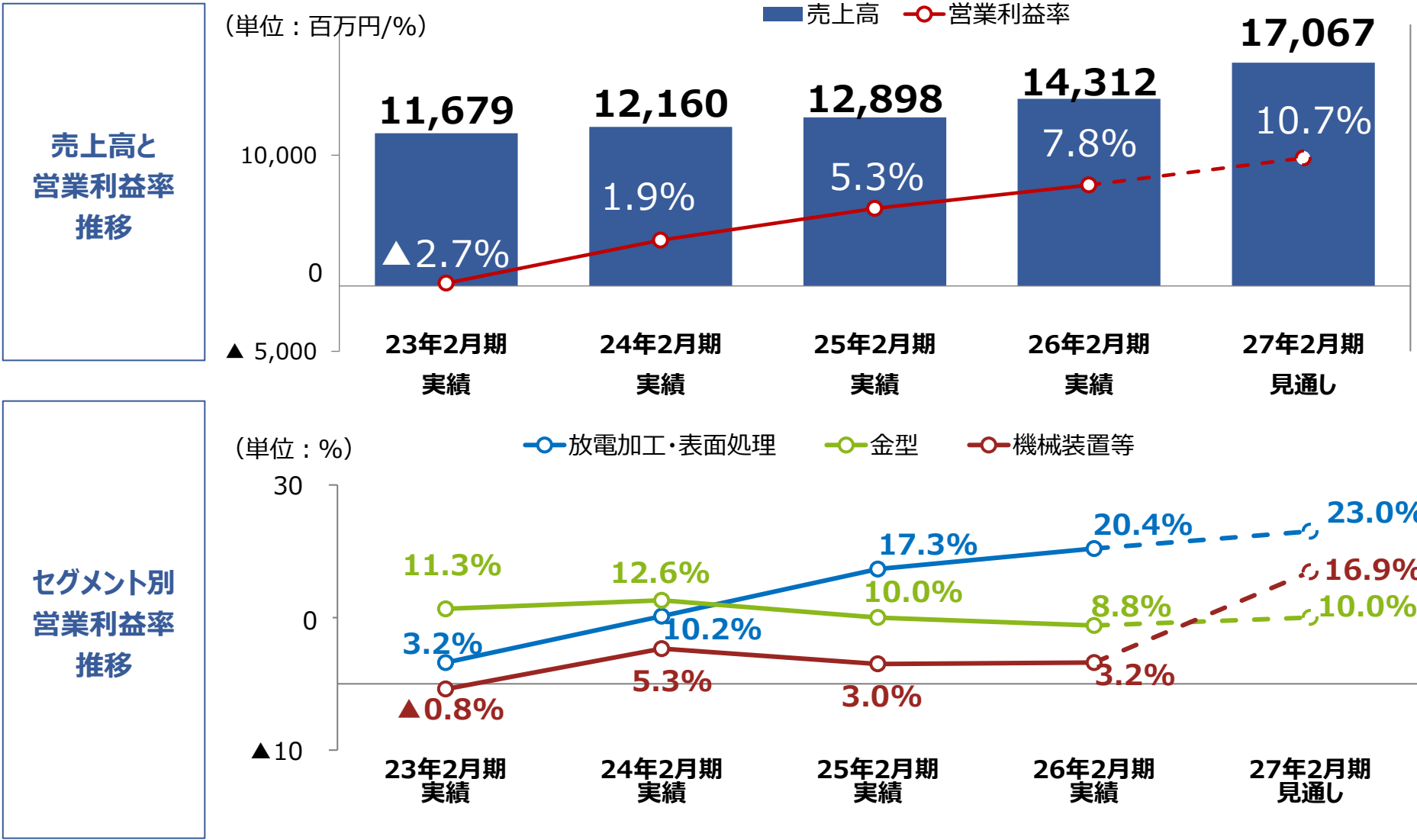
2026年2月期 通期実績 2027年2月期 通期見通し



営業利益下期見通し（上期対比）

■(↓)

◇付帯設備における高付加価値品の減収に伴い減益。

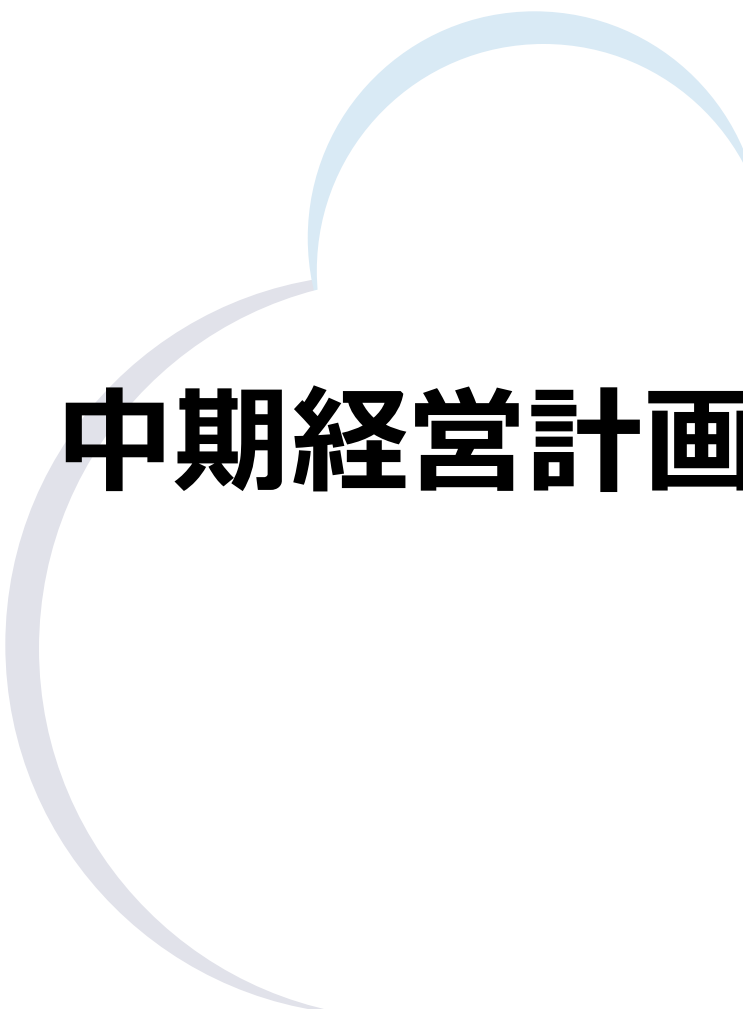


※1.営業利益率は外部売上で算出しています。 ※2.セグメント営業利益率は本社費等控除前のものになります。

株主様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと考え、現在および今後の事業収益をベースに将来の事業展開や経営体質の強化のために必要な内部留保資金の確保などを勘案し、安定的かつ継続的な利益還元を実施します。

配当金

2027年2月期 **20円** → **25円**
期初予想 2026年10月6日公表



中期経営計画2027における施策の進捗

最終年度における方向性は維持、計画の着実な遂行を推進

◆収益基盤の安定維持を継続

- 業務の標準化、生産の自動化・省人化で生産効率性を追求
- 徹底したコスト管理による経費の効率化を維持継続

◆成長分野は先行投資の回収がスタート

- 航空機エンジン部品と防衛装備品は、スケールメリットによる収益性向上
- ガスタービン部品は、下期後半より投資回収を開始

◆三菱重工業株式会社との資本業務提携によるシナジー効果創出

- 航空機エンジン部品の当初想定（2024年2月時点）を上回る増産ニーズへ対応

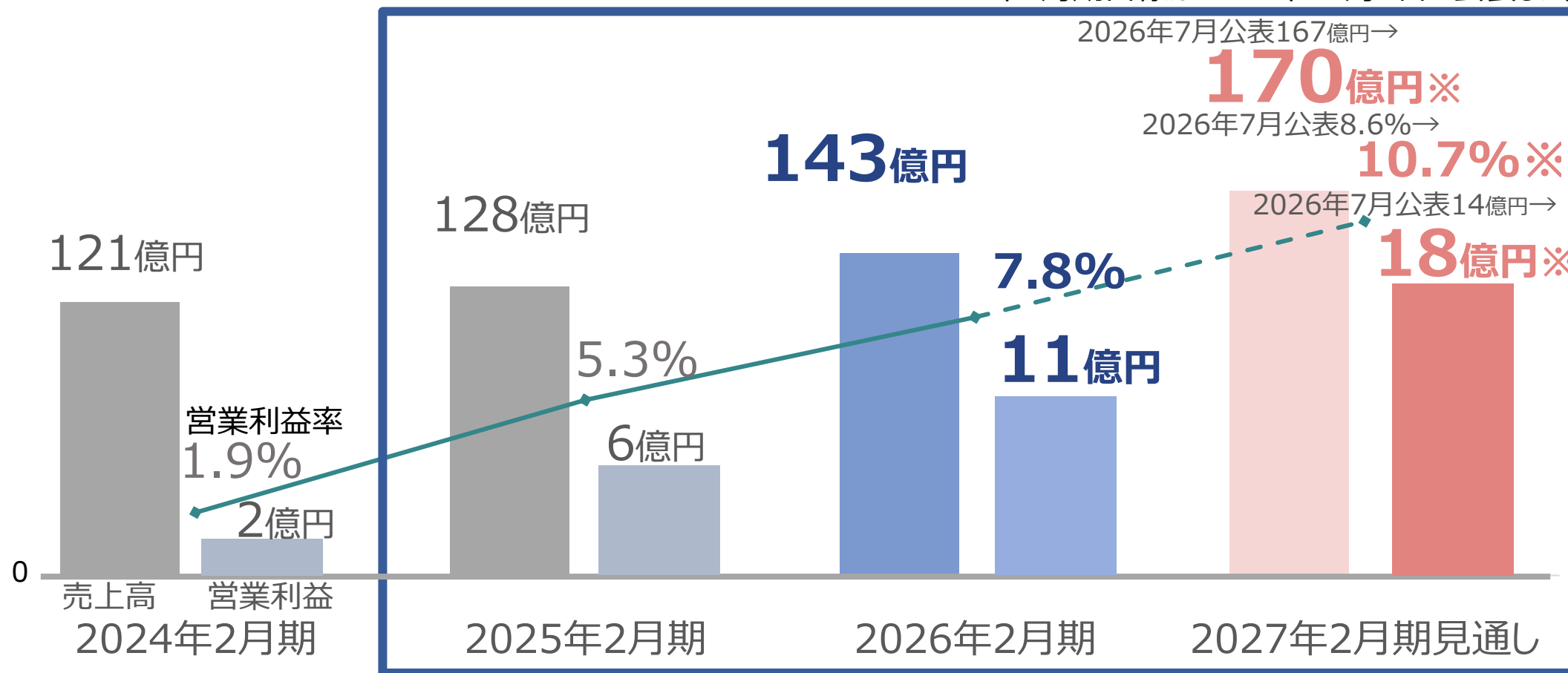
◆次の成長を見据えた活動

- 環境・エネルギー分野において新規事業化に向けた活動を開始

中期経営計画2027業績推移



※2027年2月期目標は2026年10月6日に公表した数値です。

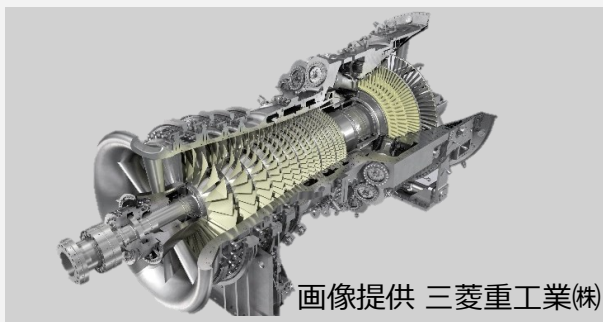


成果および見通し	2025年2月期	2026年2月期	2027年2月期見通し
	収益性を重視し 利益創出体制を強化	売上高/営業利益が 過去最高	売上高/営業利益が 2期連続で 過去最高となる見通し

事業機会と収益性

① 成長事業へ：需要へ対応、業績牽引

環境・エネルギー分野



- <アイテム>
- ガスタービン部品
 - 遠心圧縮機部品

航空・宇宙分野



- <アイテム>
- 航空機エンジン部品
 - 防衛装備品

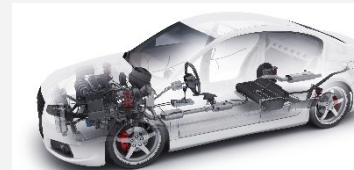
② 安定事業へ：・効率化推進



住宅分野

- <アイテム>
- 住宅アルミサッシ押出用金型

③ 再成長へ：新分野での機会創出



交通・輸送分野

- <アイテム>
- セラミックスハニカム押出用金型

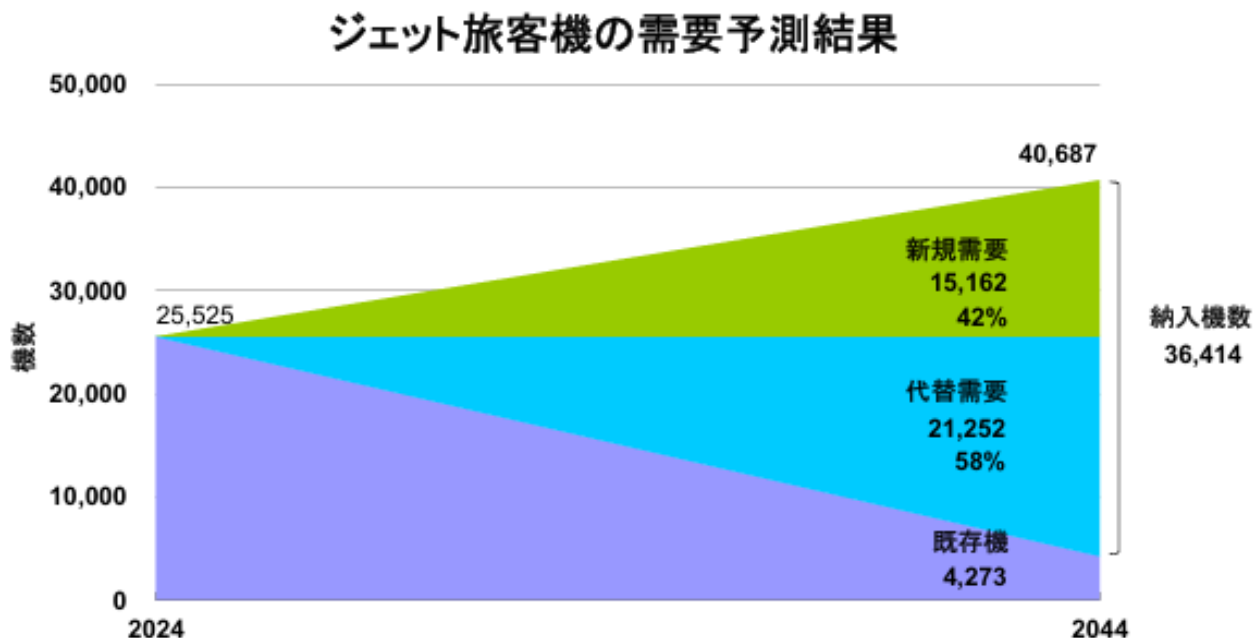


機械設備分野

- <アイテム>
- デジタルサーボプレス機

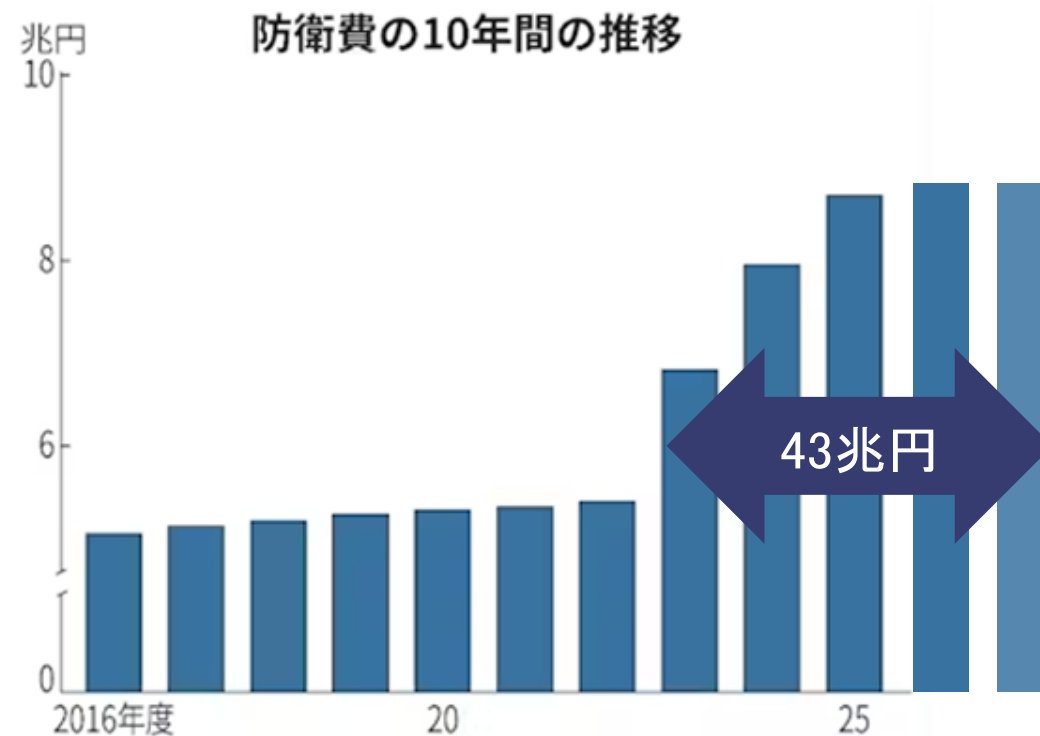
1.航空・宇宙分野（防衛装備品）の外部環境

世界のジェット旅客機の需要予測



出展：一般財団法人 日本航空機開発協会

防衛費予算



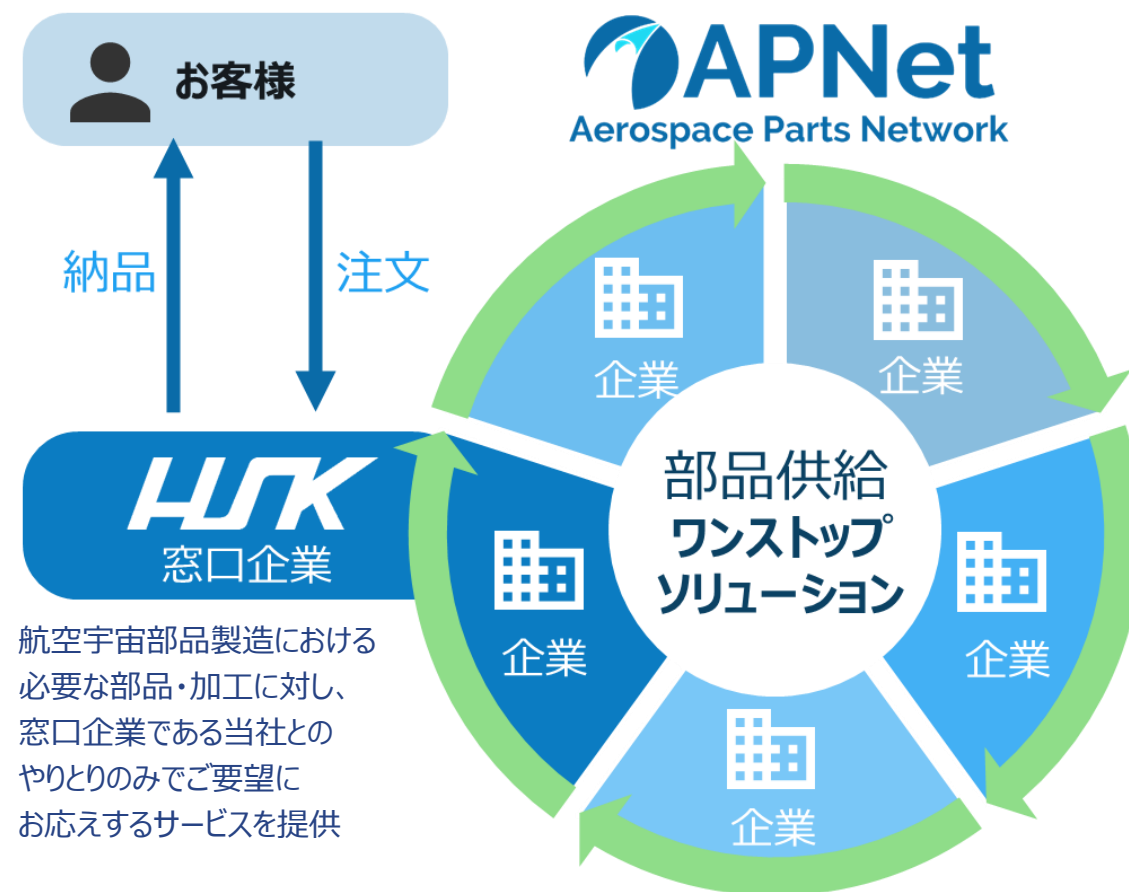
出展：財務省ホームページ「中期防衛力整備計画」

- 世界のエアラインによるジェット旅客機の運用機数は増加傾向
- 安全保障強化の方針を受け、防衛力整備計画が大幅拡充
- 既存機は燃費性能に優れる機種への入れ替え積極化
- 防衛装備品の開発・製造費にも重点配分

1-1. 航空・宇宙分野の当社の強み

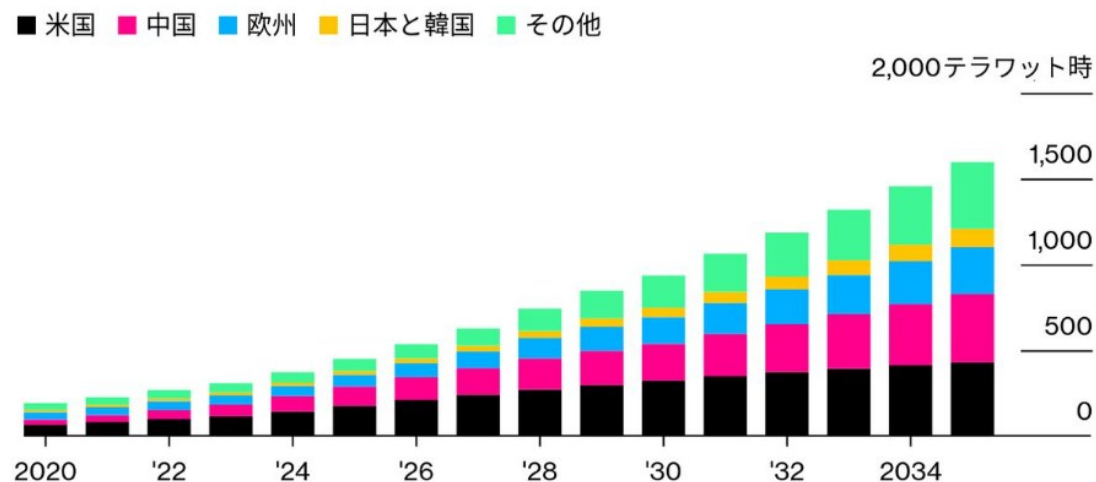


航空分野で培った加工技術や生産技術・品質保証技術にくわえ、航空宇宙部品ネットワーク APNetサービスで、新製やメンテナンス需要に対し包括的なソリューションを提供



長期エネルギー見通し

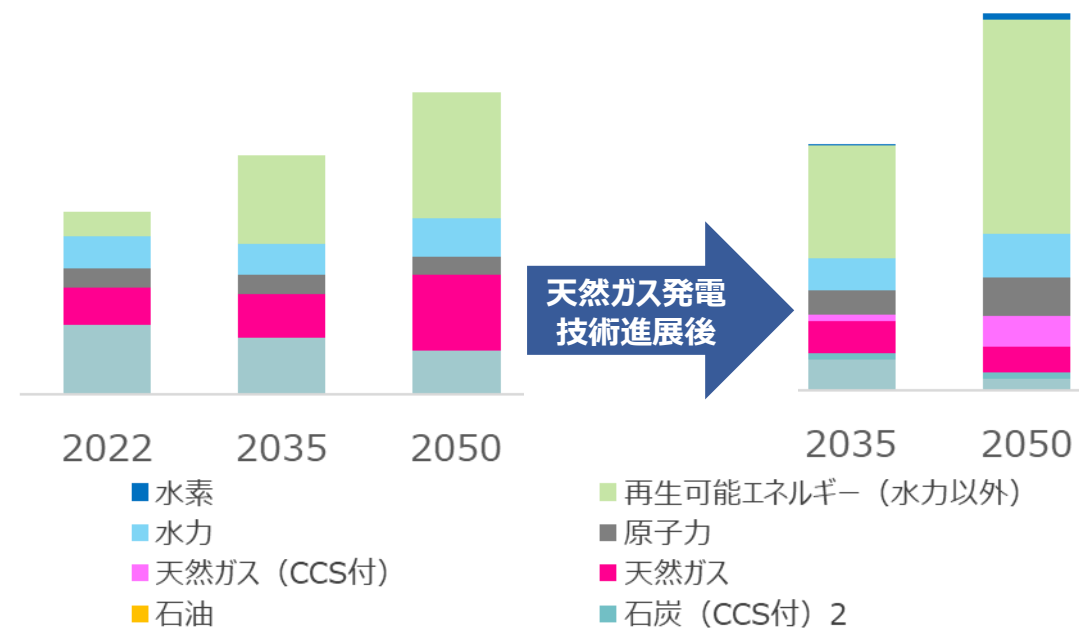
AI普及を背景に
データセンターの新增設に伴う電力需要は旺盛



出典：Bloomberg

世界の発電設備と発電電力量予測

燃料転換や再エネの補完として重要な役割を担う
天然ガス火力発電の需要は継続



出典：日本エネルギー経済研究所

1-3.環境・エネルギー分野(ガスタービン部品)の当社の強み

- 特殊精密加工技術を用いて部品を完成させる全工程を担い、新製やメンテナンス需要へ対応
- 国内メーカーだけでなく海外部品メーカーも視野に幅広く展開

40年の信頼関係を築いた高い品質と
顧客課題への提案力と対応力

豊富な加工技術による一貫生産で部品完成を担う

サーメルコーティング®や電解加工などのコア技術で
ガスタービン高効率化に貢献

全工程を担う重要サプライヤーの地位確立

素材
支給

電解
加工

機械
加工

放電
加工

溶接

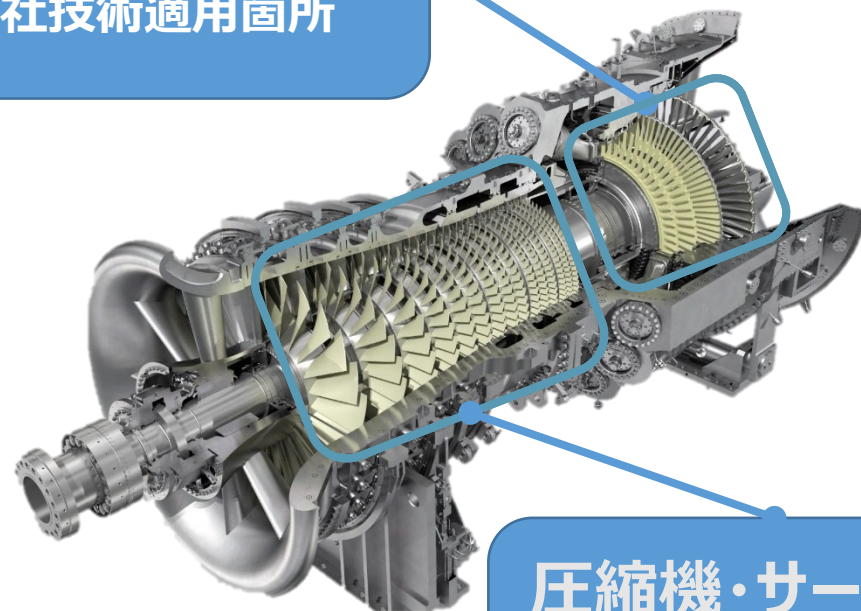
溶射

熱処理

手仕上げ
非破壊検査

完成
出荷

タービンブレード
当社技術適用箇所



**圧縮機・サーメル
コーティング**
当社技術適用箇所

画像提供：三菱重工業(株)

長期計画の共有、投資の適正化、人材・技術交流を通じて、
成長機会の確実な取り込みと資本効率の向上を実現

1. 長期計画の共有による事業の見通し向上

- ・長期的な生産計画と担当範囲を共有
- ・設備投資・生産計画を先行して立案可能
- ・生産数量の見通しが明確化し、事業計画の確度向上

2. 投資の適正化による資本効率の向上

- ・採算確保の重要性を共有
- ・初期投資の規模・内容を適正化
- ・投資回収期間を見通した計画的な投資を実行

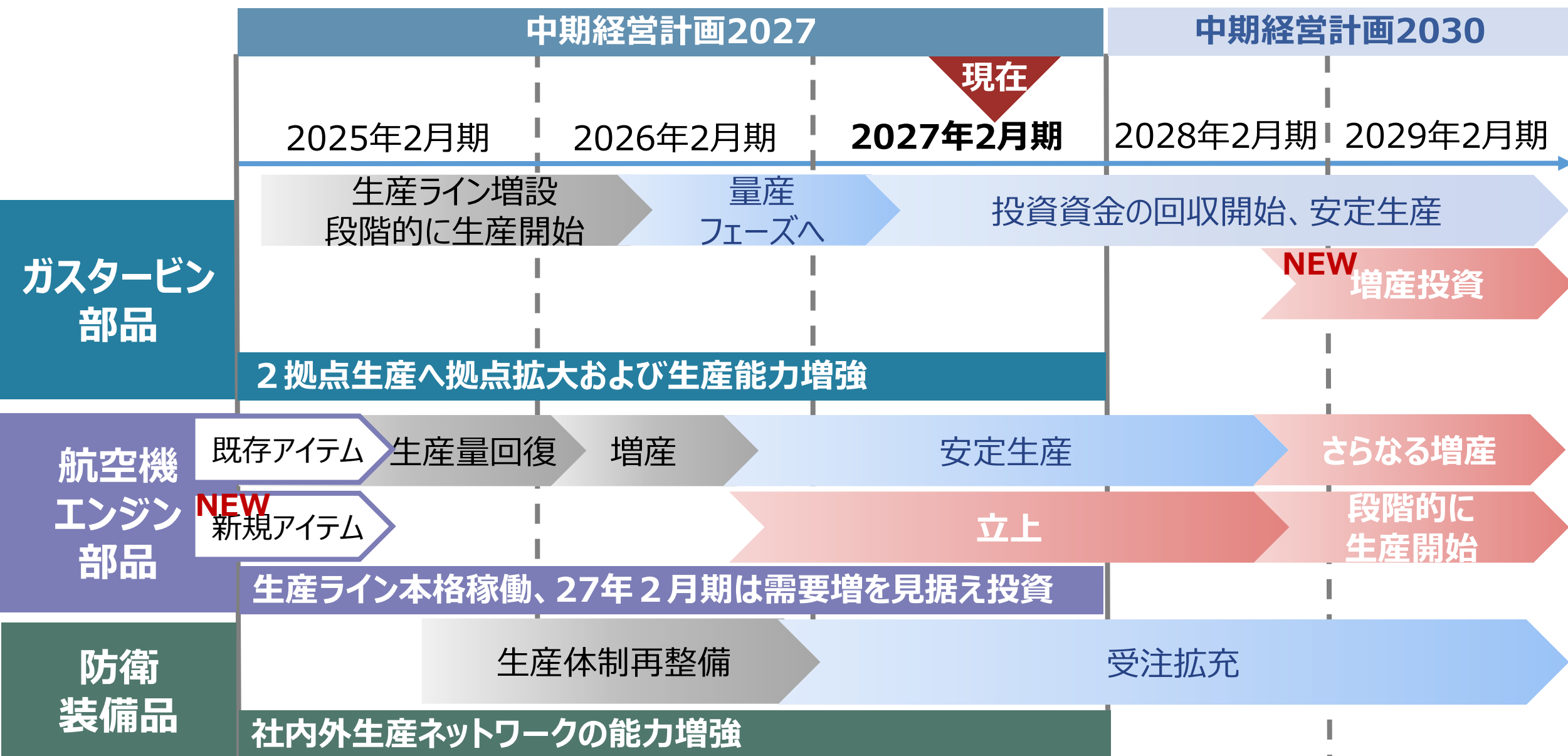
3. 人材交流による技術力・生産能力の向上

- ・出向者の受入れにより、量産立上げの技術を習得
- ・当社からの出向を通じ、増産に必要な技術の獲得
- ・人材交流を通じて、技術力と生産対応力を強化

目指す成果

- ・重要市場における将来の受注機会の維持
- ・技術競争力の継続的な強化
- ・成長投資と資本効率の両立
- ・安定的かつ持続的な事業基盤の構築

1-5.生産力強化のための設備投資の進捗①

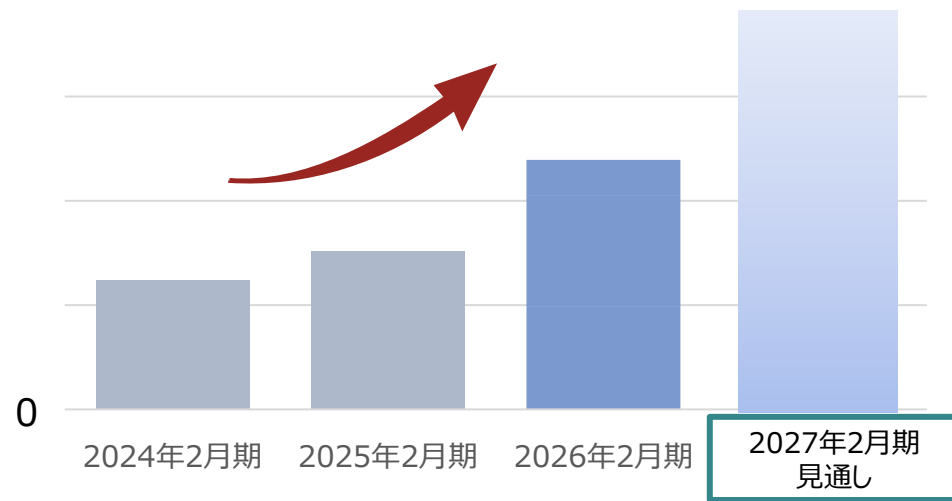


1-6.成長事業の受注高・売上高・営業利益 成長イメージ

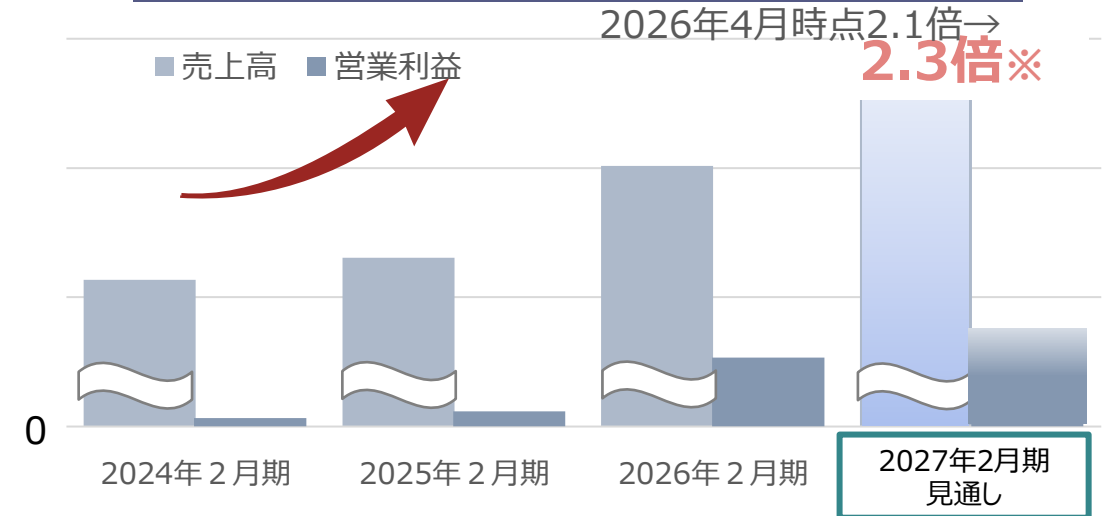


航空・宇宙分野

受注高

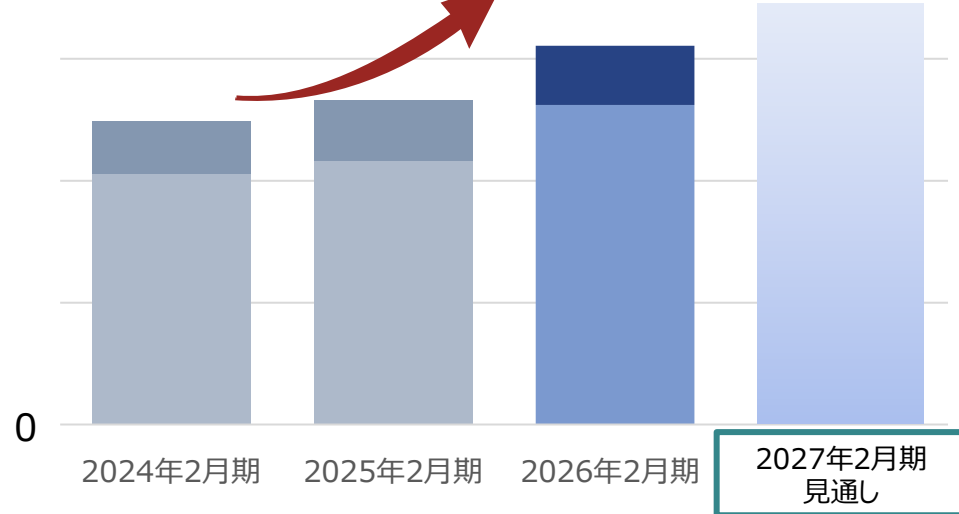


売上高・営業利益

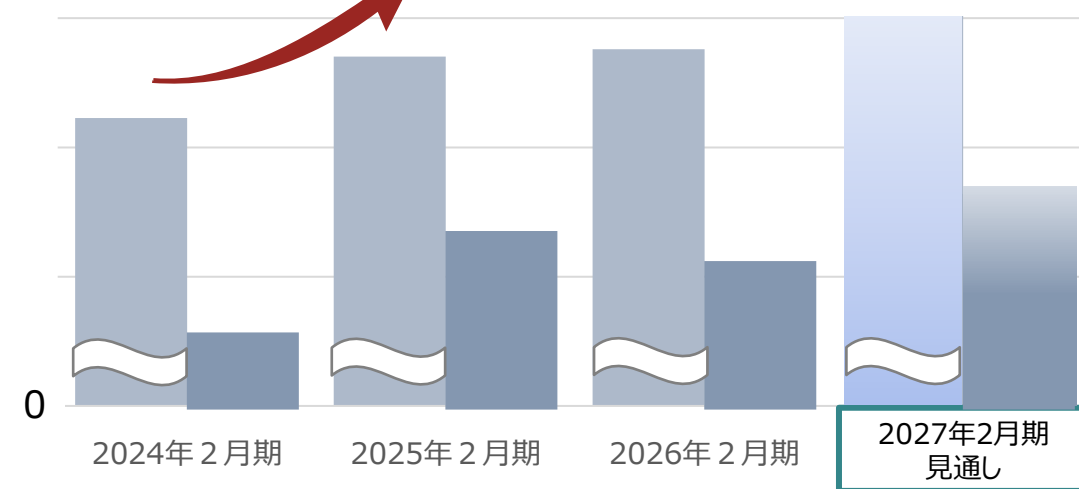


環境・エネルギー分野

■ガスタービン部品 ■遠心圧縮機部品



2026年4月時点1.4倍→
1.5倍※



※2024年2月期実績に対する倍率です。

1-7.次期中期計画を見据えた成長事業への投資の考え方

調達資金を成長投資へ活用

【1. キャピタル・アロケーション方針】

ガ ス タ ー ビ ン 部 品	資産のスリム化により獲得した資金を 生産ライン増設 へ活用
航 空 機 エ ン ジ ン 部 品	補助金等で獲得した資金を 生産ライン増設 へ活用
防 衛 装 備 品	協力先活用が中心。 自社投資は必要に応じ実施、 間接部門の体制を強化

【2. 成長事業の次の投資】

- ・数値計画等：現在詳細を精査中（次期中計で開示予定）

【3. 財務方針】

- ・成長投資と財務健全性の両立
高収益事業へ集中投資し、自己資本比率40～50%台を継続維持

外部環境の追い風

- ◆ 世界の航空旅客需要が堅調に拡大、航空各社で燃費性能に優れた機材への更新が加速
- ◆ 大型機では当社が関与している機体の需要が伸長

当社の成長ドライバー

- ◆ 顧客から当社が担当している航空機エンジン部品の製造要求が増加
 - ▷ 対応機種：A350シリーズ搭載のロールスロイス社のTrentXWBエンジン
 - ※ 既存アイテム：顧客の生産体制の見直しにより、当社が担う生産量が増加
 - ※ 新規アイテム：新たな大型エンジンに搭載されるタービンブレード、難加工含む全工程を当社が担当

投資の狙いと回収見通し

- ◆ 想定を上回る需要に確実に対応するため、生産ラインを増設
- ◆ 立上げ時期は2027年2月期から2028年2月期前半を予定
- ◆ 投資資金の回収本格化は、2028年2月期後半を予定



外部環境の追い風

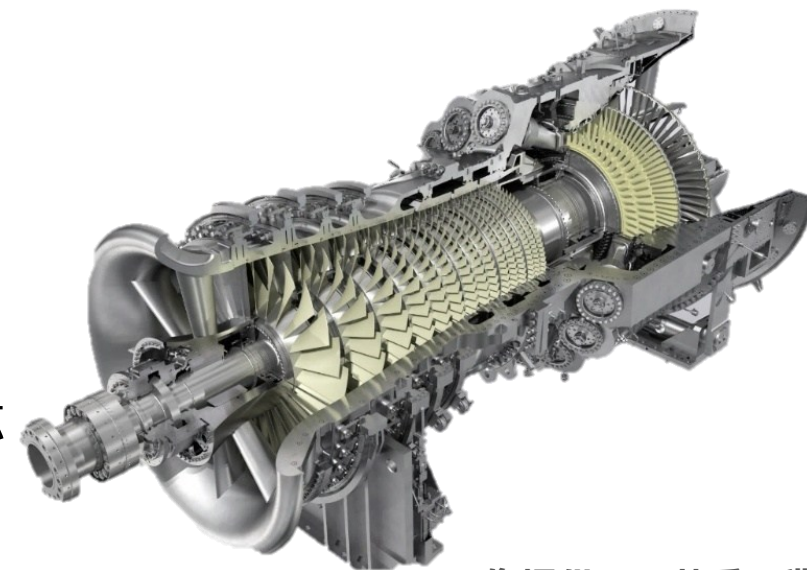
- ◆ AI普及により、世界の電力需要が拡大
- ◆ 安定・高効率な電源として、発電用ガスタービン需要が高水準。早期の供給体制構築が求められる。

当社の成長ドライバー

- ◆ ガスタービン向けタービンブレードの冷却穴加工・表面処理に強み
- ◆ 高度な技術力を要する工程で、国内有数の対応力
- ◆ 顧客から生産能力増強の要請を受けるなど、受注拡大機会が増加

投資の狙いと回収見通し

- ◆ ガスタービン部品の生産能力を増強、顧客からの早期供給ニーズに対応
- ◆ 新工場増設を含む投資により、成長機会を確実に取り込む
- ◆ 表面処理の生産能力を増強、生産量や時期については協議中



画像提供：三菱重工業(株)

2.金型セグメントの進捗

合理化追求で安定収益化、および優位性を活かした新分野での技術貢献

アルミ押出用金型

先進的なデジタル技術を活用し工法転換

- ・大幅な工程短縮を実現する生産技術の開発
- ・需要に合った体制を維持継続し業績へ寄与

新工法による採算改善

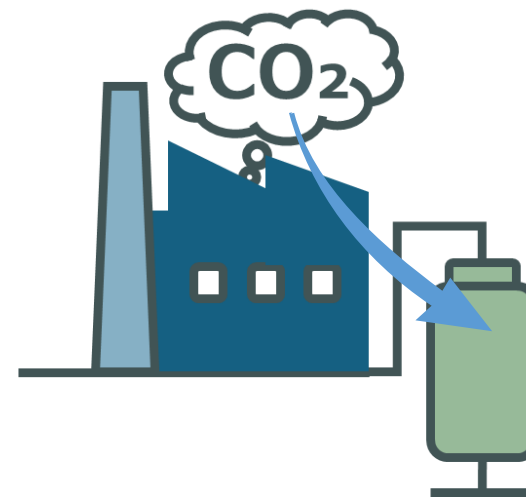


高品質で高機能なものづくりへ貢献

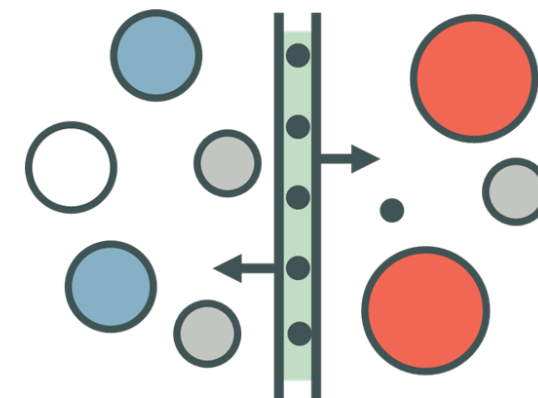
セラミックスハニカム押出用金型

CO₂回収・分離など新たな市場への展開

- ・専門設備の開発や工法の見直し
- ・顧客とともに技術の実証を推進



CO₂回収



ガス分離

3.機械装置等セグメントの進捗

資源循環型社会に向けた活動を推進

未利用資源を価値に変革する創造的革進ブランド

ARINARU



小型熱プレス成形試験機と各種 3Dプリンターを揃えた共創イノベーションラボを開設

未利用資源に対し、環境配慮設計を軸に原料から製品化までをトータルで提案するソリューション型ビジネスを拡大するとともに、共創パートナーとともに最適な循環モデルの構築へ

次世代ものづくり基盤技術を支える装置へ

サーボプレス機によるフィルム切断ニーズの増加



高機能フィルム展への出展

フィルムメーカーやコンバーターは、多層化・薄肉化・素材変更など高機能化が進む一方、歩留まり向上やロス削減など品質的課題も多い。当社プレス機の特徴を活かし、拡販へ

A high-contrast, black and white close-up photograph of a fan blade, showing its curved shape and the gaps between the blades. The lighting creates strong highlights and deep shadows, emphasizing the metallic texture and aerodynamic design.

HSK 株式会社 **放電精密** 加工研究所

本資料に記載された目標や予測等、将来に関する記述があります。
資料作成時点での当社の判断に基づき作成したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績や結果とは異なる場合があります。